

敦煌学プロジェクト研究センター
森戸国際高等教育学院共催

学術講演会

日時：2018年12月3日（月曜日）

18：15～19：15

場所：広大総科K棟205教室

TPPと一帯一路

徐双龍（復旦大学日本研究センター研究員・

広島大学大学院総合科学研究科外国人客員研究員）

講師略歴：徐双龍、1956年生まれ。1983年中国復旦大学卒業。経済学専攻。復旦大学世界経済研究所で修士を取得。復旦大学講師、上海市政府浦東開発弁公室を経て、東京短資など日本の金融機関でトップを務める。論文に「论战后日本金融政策在宏观经济控制中的作用与机制（戦後における日本の金融政策はマクロ経済コントロールの中にその役割およびメカニズム）」、「中国企业的出口导向和国际化(The Export--orientation and Internationalization of chinese Enterprises)」、『中国企业发展年鉴1988 (Year Book of China's Enterprise Development)』、中国展望出版社、1988年などがあるほか、「上海浦东开发与长江三角洲地区外向型经济发展研究（上海浦東開発と揚子江デルター地域の外向型経済発展に関する研究）」、上海市政府開発研究プロジェクト報告書、1993年も分担執筆している。その他『解放日报 (JIEFANG Daily)』、『世界经济 (World Economy)』（復旦大学世界経済研究所刊行）、『中国城市导报 (Report about China's city)』等の新聞や雑誌に寄稿記事、論文多数。